

朝倉とともに 2018.9.15

防災士 朝倉災害支援ボランティア活動センター

代表 天野 時生 副代表 橋本 康弘

第25号

できることをひたすらに

柱を支えていたコンクリート基礎が不要となったため、掘り起こし撤去、その後、倒木の玉切りを行い、土砂によって折れた柱や埋もれていた木材とともに薪割を行った。3名で電動ノコギリやチェーンソー、薪割、運搬等コンビネーション良く作業は進められ、午後2時過ぎに怪我なく終えた。



九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに早期の復旧・復興を祈念します。

復興への戦いは今から

7月14日(土)から16日かけて土砂撤去作業を行った筑紫郡那珂川町不入道地区の被災地で2ヶ月後の9月15日(土)に基礎の撤去と倒木の玉切り等、整理清掃作業を行った。



西日本豪雨で土砂が裏庭から住居下まで流れ込み、柱が数本破壊されていたが、土砂は7月に撤去、柱も8月中に修復され、あの土砂がうそのように無くなり広々とした空間と裏庭となっていた。これだけを見れば復旧完了とい

ったところではあるが、住居を囲っていた外柵は10月頃、井戸の復旧は11月頃であり、まだまだ不自由な生活を送っておられる。また、外見ではなく被災者の心の面の復興も道半ばである。

小さくても多くの作業がある

時折小雨の降る30度前後の温度の中での作業となったが、作業は思っていたよりも捗った。

当初の作業は、二次災害防止の裏山の雑木伐採を予定していた。しかし、住居下に処理が遅れている不要な木材等があり、まずはそれらを整理してからということになった。



「なかなか整理がつかない」と被災者の方は話されていた。まだ年齢や体力的に動ける人でも疲労で復旧が進まないのに先月作業を行った方は独居老人であり、自分の力ではどうしようもできない状況にある。大きな作業は終わっても小さな多くの作業は残っている。

